

ユーザーレポート

User Report

ユーザーレポート

— 0の証明 —

■ 淡路交通株式会社

検知精度の高いアルコールチェッカーにより 安全意識が変わる

当社は、もともと鉄道会社(淡路鉄道株式会社)として、大正11年11月に鉄道を開通させました。その後、昭和9年7月1日に淡路自動車(株)を買収し、淡鉄バスとして、洲本、南淡路地域の自動車輸送を始めました。当社のロゴマークは淡路交通(AwajiKotsu)のAKをデザインしたもので、未来に通じる道を躍進する淡路交通をあらわします。

ご利用機器

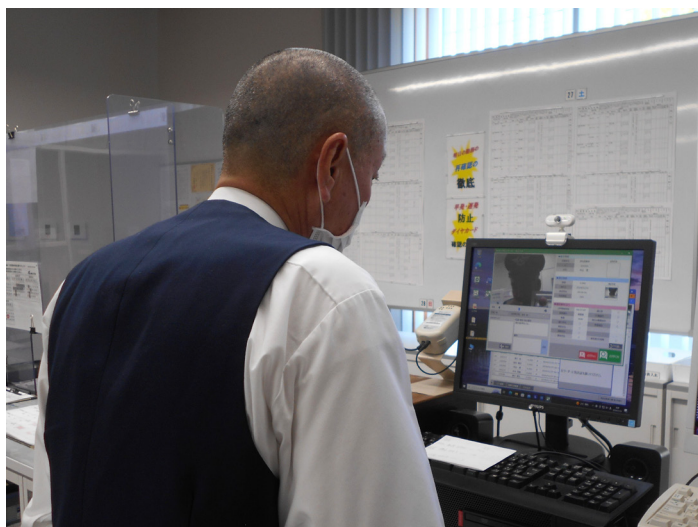
- ALC-PROII
- Tenko-PRO2



導入のきっかけ

より検知精度の高い検知器で 乗務員の「飲酒運転の撲滅」を サポートしたい

当社では安全な運行をより確実にするため、デジタコ、アルコールチェッカー、ドライブレコーダーとかなり早い段階から導入してまいりました。アルコールチェッカーにおいては、平成14年9月より他社製品を用いた点呼を行っていましたが、より検知精度の高い東海電子製のALC-PROを知り、平成19年2月に導入、乗務員の「飲酒運転の撲滅」をハード面でサポートしてまいりました。



製品導入による 効果・感想 乗務員の飲酒に対する意識が変わり 安全への使命感が高まった

ALC-PROを導入してからは、客観的な結果が残ることで乗務員の飲酒に対する意識も変わり、乗務前日の禁酒を確実に行うとともに、会社の基本理念でもある「お客様に安全・安心を提供し、快適に目的地までお届けする」という使命の意識が高くなっています。



今後の展望

自動点呼・共同遠隔点呼も視野に。 安全確保につながる機器は積極的に 活用していきたい

令和2年4月からは、少し離れた車庫にTenko-PRO2を導入し、IT機能を活用した遠隔地点呼を開始、モニターによる対面点呼にて健康状態、薬の服用、睡眠不足の有無等の確認も行い、安全運行に努めています。少子高齢化の中、当社においても乗務員、職員の不足が課題となって来ていますので、自動点呼、共同遠隔点呼等によって安全が確保できるのであれば、積極的に導入していきたいと考えています。また当社の安全への取り組みの一環として、乗務員の技術向上を目指しており、全乗務員が1年に1度はスラローム走行やタコつぼからの脱出など車両感覚の確認を行っています。またその時々発生した事故を分析し、事故を防ぐための運転操作の訓練や重要なポイントの確認を行い、より安全、快適な運行を目指しています。

取材ご協力

淡路交通株式会社

運輸部 業務課 参事 網本 善哉 様

住所: 〒656-0012 兵庫県洲本市宇山1丁目4-39
TEL: 0799-22-3121

